

# 地域をつなぐ・つながる

## コロナ禍から活動再開

### in 福島・郡山医療生協



桑野支部のみなさん  
(マスクは撮影時のみ外しています)



「コロナ禍で民医連や共同組織の活動が大きく制限され、2年が過ぎようとしています。各地では、つながりを取り戻そうと、コロナ禍からの活動再開に向けて模索が続いています。福島・郡山医療生協のとりのくみを取材しました。」

(稲原真一記者)

「コロナ禍でつながりをつくり、新しい運営委員を増やすにはどうしたらいいか」と、郡山医療生協桑野支部で議論になったのは、今年の5月ごろのこと。桑野支部があるのは、同医療生協の設立運動が行われた地域で、約600人の組合員がいます。しかし、支部の運営委員は昔からの組合員が中心で、新しいメンバーを見つけることが課題でした。そんな時にコロナ禍で、顔の見える関係づ

くりがさらに難しくなりました。

## 出会うことの

### 大切さ

そこで提案されたのが、毎月誕生日の組合員を訪問する「誕生日訪問」でした。健診案内の訪問活動は以前からやっていたのですが、全組合員を対象にするのは初めてのこと。「毎月の訪問活動は続かないのでは、との意見もあった」とふり返るのは、長年桑野支部で活動をしている村上久枝さん。しかし、実際に訪問してみると、「コロナ禍で人と話せず、訪問してもらえてありがたい」「また来てほしい」など、歓迎の声が多数ありました。村上さんと30年来の付き合いという山上千恵子さんは、「求めている人がいるとわか

って、みんなやる気になった」と言います。

活動は今年の6月から始まって11月までに6回実施し、毎月50件程度を訪問。医療生協や病院の案内とともに、毎月手づくりのメッセージカードを手渡しています。訪問で亡くなっていると思われる人や、99歳でも自宅

で元気に生活している人、組合員になって初めて会う人もいて、訪問の大切さを実感しました。疎遠になっていた昔からの組合員と、訪問を通じてあらためてつながり、思わぬ人が組合員とわかったり、「地域みんなが仲間なんだ」と実感する機会にもなっています。

「この訪問を1年がんばって、来年はさらに活動を広げたい」と話すのは、石井うたさん。桑野支部の拠点にもなっている「たまり場」COSSE亀田の代表をしています。COSSE亀田でも、コロナ対策をしながら、農家の組合員がつくった野菜を格安で販売する朝市(写真右下)や、食事会などさまざまな活動を再開しています。

## 新入職員も

### 地域訪問

拡大強化月間中の11月4日には職員24人、組合員12人で合同の地域訪問も行い、262件を訪問、114件で対話しました。初めて訪問に参加した桑野協立病院の鈴木愛芳さん(理学療法士)は、「コロナワクチンが打てなかった」「健診を受けたい」という地域の声を、同行した組合員さんが

すぐに具体化していただいていた。一人ひとりの組合員さんに会うことで、医療生



COSSE亀田の朝市

協が地域の人にささえられていると実感できた」と言います。今年桑野協立病院に入職した佐久間れいなさん(作業療法士)も初参加。「訪問地域は通勤路だったが、見知った場所でも初めて知ることばかり。地域の人と趣味の話をしたり、庭を見せてもらったりすることも楽しかった。地域まるごと健康に」という、組合員活動を身近に感じられる機会になった」と、職員が共同組織の意義を学ぶ場になっています。「組合員さんとの訪問は楽しく、また機会があれば参加したい」と2人とも口をそろえます。

郡山医療生協の組織部長の小坂勝洋さんは、「今後は小児科に通う、若い世代にも活動を広げていきたい」と語ります。他県を参考にしたり、SDGsのとりのくみを発信したりと、

コロナ禍に負けず新しいことに挑戦しています。

**LINE公式アカウント**  
はじめました。

LINE

LINE公式アカウントのメリット

- 1. 最新情報やイベントのお知らせ
- 2. 地域限定のクーポンや優待
- 3. 健康相談や相談窓口の案内
- 4. 緊急時の連絡手段

友だち追加方法

1. QRコードを読み取る
2. 検索して追加
3. 友達紹介

LINE公式アカウントのQRコード

郡山医療生協 総務課 024-997-0000

LINE  
公式ア  
カウ  
ント  
のせ  
お知  
らせ